継続教育（コース2）

ヘルスリテラシーと消費者健康情報学

中山　和弘
聖路加看護大学看護情報学・教授

WHOのヘルスリテラシーの定義は「認知面や社会生活上のスキルを意味し，これにより健康増進や維持に必要な情報にアクセスし，理解し，利用していくための個人の意欲や能力」である。その低さは、健康のリスクファクターになり，その高さは，単に健康情報を使えるということにとどまらないヘルスプロモーション（人びとが自らの健康とその決定要因をコントロールし改善することができるようにするプロセス）のための能力・資源になる。WHOは，上の定義に続いて，「生活習慣と生活状況の改善を通じて，個人やコミュニティの健康改善を図るよう主体的に行動するための知識・生活上の技術技能・自信の成熟度を意味する。パンフレットを読んだり，予約を行ったりできる能力ではなく，健康情報に接する機会を増やし，それを効果的に利用する能力の向上によって，エンパワーメントするために不可欠である」としている。

日本人の健康情報へのアクセスはどのようなものであろうか。『情報通信白書』（2005）によると，健康情報の入手先では，インターネットがトップで62.9%，次いでテレビ46.6%，雑誌・書籍32.2%，新聞20.6%となっている。インターネットは世界的にすでに代表的な健康情報源である。そのため，欧米の医療情報学や看護情報学は，従来の医療提供者中心の情報だけでなく，健康サービスの消費者を中心とした消費者健康情報学（Consumer Health Informatics）という動きがでてきている。それは消費者の情報ニーズを分析し，消費者の入手しやすい情報をつくり，欲しい情報を得た消費者がより自分の意向や好みにあわせたサービスを受けられるためのものである。これは医療者中心から患者中心への変化を追う現象でもある。

とくに，日本語のWebの世界では，英語圏にくらべて信頼性のある情報源は少ない上に探しにくい。そこでどのような情報提供や支援が可能かについて考えるため，これらの研究の動向と方向性について整理するとともに，現在構築中である看護職や市民のヘルスリテラシーの向上を支援するサイトについて紹介したい。

プロフィール

東京大学大学院医学系研究科博士課程（保健学専攻）修了
日本学術振興会特別研究員(PD)、国立精神. 神経センター精神保健研究所流動研究員、東京都立大学人文学部社会福祉学科助手、愛知県立看護大学助教授を経て、現在、聖路加看護大学教授
主たる研究領域は保健医療社会学、保健医療情報学
ホームページ　ナースに役立つ種類のサイトとは？　http://www.nursessoul.info/